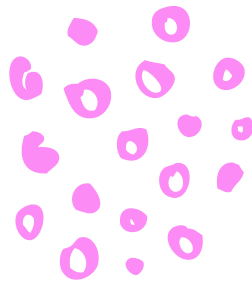


ゆりいか通信

第22号

令和8年2月



休むことから気づくこと

寒さが厳しく、体調を崩しやすいこの時期。風邪などで学校をお休みしたことをきっかけに、「思っていた以上に疲れていたのかもしれない」と気づくことがあります。登校という一点に焦点を当てると、欠席が続くことに不安や心配が先に立つかもしれないかもしれません。けれど、長い目で見たときには、自分の身体の疲れに気づき、必要な休養を取ることはとても大切な力です。

毎日を一生懸命に過ごしている、疲れを感じる余裕さえなくなってしまうこともあります。休んで初めて、「実は無理をしていた」「知らないうちに頑張り続けていた」という事実に気づくことも少なくありません。それは決して後ろ向きなことではなく、自分の状態を知り、これからの過ごし方を考えるための大切な経験でもあります。

お医者さんから「もう大丈夫ですよ」「もう治っていますよ」と言われたとしても、それは風邪が治ったという意味であって、心と身体が本調子に戻っているかどうかは、本人にしか分からない部分もあります。自分の身体の声に

耳を傾け、今の自分にとって何が必要なのかを考えて選ぶ取る力は、これから先を生きていくうえでとても重要なスキルです。

また、保護者や周囲の大人が「疲弊していないか」「無理をしていないか」を振り返り、必要であればいったん立ち止まり、物事を中断して休息を取る姿を見せることも、大切な教育のひとつだと思います。言葉で伝える以上に、大人が自分自身を大切にしている姿そのものが、子どもに伝わることもあるでしょう。学校の先生方は、子ども達が元気になって笑顔で登校してくる日を、「今か今か」と待っておられることだと思います。けれど、笑顔でいられる状態を保つことが大切なのは子ども達だけではなく、先生方も自身も心と身体の健康を大切にしながら、この寒い時期を過ごしていただければと願っています。

心と身体にはそれぞれの回復のペースがあります。その歩みを急がせず、一人ひとりの時間を尊重できる、そんな2月でありたいものです。

恩庄 香織

Upcoming Events

2/14

♥ わいわいギャザリング

カリンバをさわってみたり、ボードゲームをしたりして過ごしましょう。

2/15

◆ フラッペ勉強会・交流会

2月は特にテーマを決めない「ゆるりお話し会」です。よかったらご参加ください。

3/15

♥ 「不登校のお友だち」

気になるお友だちがいる人、一緒にしゃべってみませんか。何かヒントがあるかも。

3/29

★ ゆりいか勉強会・交流会

不登校の子どもの次の一歩を考える「ゆりいかアプローチ」についてご紹介します。



ゆりいか研究会

- ★ 教職員・若者支援者対象
- ◆ 保護者・若者支援者対象
- ♥ 高校生年代の若者対象

いずれも詳細はゆりいか研究会ウェブサイトをご覧ください。

第2回総会の報告

日時：2026年1月18日日曜日午前11時～

場所：こりす西陣

★2025年度活動報告

フラップ、ゆりいか勉強会、bふらっとbなどの各事業を継続実施し、親子カリンバ体験、教職員カリンバ体験を新たに開始いたしました。さまざまな活動を通して、地域の団体や行政の方々とのつながりが生まれ、ゆりいか研究会の活動や考え方を知っていただく機会が増えてきました。また、相談事業やゆりいかパーソナル#、大学でのゲスト講演なども行い、多様な立場の方と対話を重ねる一年となりました。

★2025年度決算報告

・総収入：194,686円 総支出：632,925円

2025年度は、各事業の継続と新たな取り組みを進める中で、活動に必要な支出が生じました。一方で、参加費や寄付などによる収入は限られており、運営継続のため代表者による立替を含む形で事業を行ってきました。また、協賛広告など新たな形でご協力くださる方もおられ、活動を進める大きな力となりました。なお、本通信に記載している総収入は、代表者立替金を除いた実質的な収入額です。

この状況を真摯に受け止めつつ、今後は活動の持続可能性を高めるため、引き続き運営の工夫と資金確保に取り組んでまいります。

★2026年度活動計画

2026年度は、これまでの出合いやつながりを大切にしながら、活動をより丁寧に深めていきます。教職員向け勉強会やカリンバ体験、保護者支援のフラップ、高校生年代の居場所bふらっとbに加え、「不登校のお友だち」プロジェクトにも力を入れ、不登校の子どもを支える友人や若者同士のつながりづくりを進めます。誰もが安心して関われる場を育てながら、持続可能な活動を目指してまいります。

★2026年度予算案

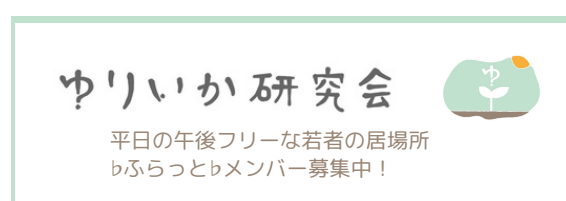
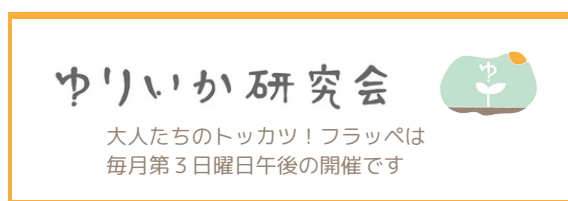
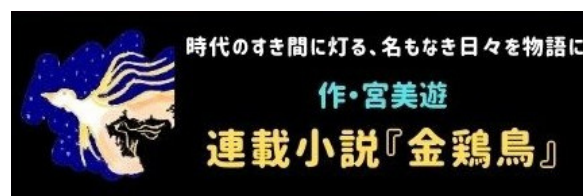
・総収入（寄付等目標額） 423,500円 総支出： 416,760円

今後ともご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（順不同）



多喜誠子さま、杉本さま、宮坂 修平さま、T.OGAWAさま
クラウドファンディングおよびその他の形で協賛・寄付をしていただいたみなさまに心より感謝申し上げます。campfire communityにおきまして引き続きクラウドファンディングを受け付けております。また協賛広告や直接の寄付も受け付けております。関心をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひお声がけください。



令和8年度協賛広告の募集

日頃より、ゆりいか研究会の活動にあたたかいご支援をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄付やご協力が、学びや出会いの場を継続する大きな力となっています。現在、3月以降の協賛広告を募集しております。寄付や広報へのご協力など、さまざまな形で活動を支えていただけましたら幸いです。関心をお持ちの方は、QRコードよりお申し込みください。



《連続小説》



金鶏鳥

宮美遊

幼少期 (十九)

「苗を取りに行つたのに、ビワの木に登って食うとるなら、もうビワの木に括つたる」

弥之助は信男を叱ると、田植様の方に向かつて頭を深く下げた。

「すまん事やなあー、手を止めてしもうて」

「ごめんなさい」

信男もすまなそうに頭を下げた。けれど、田植様達は気にする様子はなかった。

「かましませんよ。お陰で腰を伸ばす事が出来ました」

笑顔でそう言つて苗を受け取り、またせつせと手を動かし始めた。

一方辰郎はその頃オヒサと山裾に行つていた。サルトリイバラから、丸くてつややかな葉っぱを摘み取ると、腰に下げた籠に詰めていた。サルトリイバラは「猿捕茨」と書くように、茎に鋭い棘があり刺さると痛い。面倒な作業ではあったが、辰郎は手際よくサルトリイバラの葉を摘んでいた。この地域には、田植えが終わる

と野上がり饅頭を食べる風習があった。二枚のイバラの葉に挟まれた饅頭は、中に小豆のこしあんが入っている。ちょうど柏餅の柏の葉を二枚のイバラの葉にしたような感じである。それを幾つもの重箱に詰めて、親戚やお世話になった家にも配るのだ。

翌日信男が学校から帰ると、居間の隅にお餅用の大きく平たい木箱があった。信男はカバンを置くと木箱を覗き込んだ。中には野上がり饅頭がいくつか残っていた。

信男は、今日みんなに配ったのだな、と思った。残っている野上がり饅頭を食べるのが毎年の楽しみだ。野上がり饅頭を一つ取り、両側のイバラの葉を剥がして木箱の空いているところに置いた。手に持った白くつるつとした饅頭をひと口かじる。中からこし餡が見える。もうひと口食べると、甘さが口に広がった。

この小説は、明治・大正・昭和と激動の時代を乗り切つた実在の人物をモデルとした小説です。先行き不透明な現代を生きるヒントが得られるような気がします。ぜひこれからも楽しんでご一読ください。

絵：落葉画廊

編集後記

この間の朝市マルシェは、大雪の中での開催となりました。事前から「大雪に注意」と言われてはいましたが、まさかここまでとは思つておらず、準備中は「雨よりは楽かな」などと話していたほどです。ところが始まってみると、ふわふわとした雪が次々とテントの中に舞い込み、あちこちが濡れてしまいました。見かねたお隣さんがタオルを貸してくださったのも、ありがたい出来事でした。屋根の雪を何度も下ろす一方で、その雪は小学生たちの手によって雪玉となり、雪合戦が始まりました。震えながら雪と向き合う私たちの横で、汗をかきながら遊ぶ子どもたちの姿に、心が温まった一日でした。(恩庄か)

おしらせ

★3月は「不登校のお友だちトークイベント」や教職員および支援者対象の「ゆりいか勉強会」を行うため、フラックペはお休みです。

★令和8年1月号までのゆりいか通信をウェブサイトに掲載しました。関心おありの方にご紹介ください。